



例会日・毎週月曜日 12:30～13:30
 例会場・ホテルニューオータニ高岡

創立・1980年5月19日
 認証・1980年6月12日
 国内創立順位・1489

会長 宮田 義弘
 幹事 魚住 晃一
 会報委員長 長澤 貴士

第1769回 例会 1月 20日 (月)

◇点 鐘

◇国歌斉唱

◇ソング “四つのテスト”

◇ゲストのご紹介

ゲスト：富山県建築設計監理協同組合
 株式会社創建築事務所 チーフ 和田 行弘 様

◇会長挨拶並びに報告

皆さんこんにちは。6日は新年会にたくさんお買い上げいただきありがとうございました。雪のない、過ごしやすい気候です。しかし困っている方もたくさんいらっしゃいます。私の住んでいる地域の新年会で、市議員の話によると、3年前の豪雪時には除雪費用が、15億円かかったそうです。昨年は暖冬で5億、今年はこのままで行くと、少ないお金で済みそうです。異変がなければよいなと思います。皆さん健康に気をつけてください。

◇荻布雅章会員より、会葬御礼

◇幹事報告

- 1) 本日例会終了後、理事会を開催いたします。
- 2) 回覧：①ガバナー月信 NO.7 (テーブル毎)
 ②会報 NO.20.21 (テーブル毎)
 ③3/7 (土) 富山第4分区分都市連合会 (IM) の出欠確認表 (最終)

◇委員会報告

*長澤雑誌委員長より「ロータリーの友」1月号の紹介

◇1月在籍表彰

村牧 啓功君 (16年)

◇1月結婚記念日祝い

- 新原 俊夫君 (7日、47年)
- 宮崎 外男君 (14日、41年)
- 荒木 信幸君 (20日、19年)

◇1月誕生日祝い

- 金田 恒幸君 (7日)
- 和田 徹君 (17日)

◇ニコニコBOX 報告

(株)創建築事務所 チーフ 和田 行弘 様：

本日の卓話謝礼をニコニコBOXへ。

宮田会長：本日は、創建築事務所 チーフ 和田行弘様卓話よろしくお願ひします。

荻布精一君：妻の通夜、告別式にあたりまして、皆様には年始のお忙しい中ご会葬いただき、丁重なるご芳志を賜り、誠にありがたく心より御礼申し上げます。今後も変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

荻布雅章君：皆様には仕事始めのお忙しい中、母の通夜、告別式にご会葬賜り、厚く御礼申し上げます。また、勝山さん、魚住さん、山辺さん、吉谷さんには、受付をお引き受けいただき、深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。

幸塚栄三君：この前、鍋祭りでは野尻会員の奥さんに会いました。「この前、北麗会の会合で離婚と言っていましたか卒婚ということに訂正させていただきます」ということでした。

村牧啓功君：①在籍表彰をいただいた御礼

②ペイペイとクイックペイを始めました！！

山辺知代君：和田行弘様、卓話よろしくお願ひ致します。

吉谷奈艶子君：先日長女が成人式を無事に終えました。私の着物を着ました。ひまわりさんと、小物を借り、令和仕様にしていただきました。ありがとうございました。私も一緒に写真を撮っていただき、それなりに美しくなりました。

【今年度ニコBOX 累計額 582,600円】

◇出席報告 出席者 28名 メイクアップ済 2名

名誉会員	会員数	本日の出席率	12/23 例会修正出席率
1名	39名	93.75 %	67.65 %

◇本日のプログラム（担当：親睦活動）

卓話「とやま生まれを、
とやまで活かす。～とやま
県産材活用について～」

富山県建築設計監理
協同組合
株式会社創建築事務所
チーフ 和田 行弘 様



■STEP0 とやまの森を知る

富山の森林状況

・富山県の県土面積の67%が森林、そのうち63%が民間林、民間林のうち28%が人工林となっています。

富山県の森林植生

・県内の人工林の93%がスギを占めており、とやま県産材といえばスギ材として認識されています。

富山県の森林資源

・県内の人工林の8割以上が木材としての利用適期の樹齢41年を迎えています。

森林の働き

・森林は私たちの生活環境を守る働きを持っており、土砂災害、水害予防効果も注目されています。

富山の森を守る

・森を守るためには、木を活用して森の手入れがされて、バランスを保つことが大切です。

・「とやま県産材を使うこと」→「とやまの森を守ること」
→「とやまを災害から守ること」につながります。

■STEP1 とやま県産材を知る

とやま県産材の特徴

・ほとんどがスギ タテヤマスギ(県東部)、ボカスギ(県西部)、マスマスギ(砺波地域)

・適材適所で利用すれば、安定的な調達やコストの抑制ができます。

伐採から製材までの流れ

・伐採→集材→荒挽き→乾燥→製材の流れで消費者のもとに届きます。

木取りの例

・1本の丸太から柱や梁、板材などを取るために材料のロスがない製材＝木取りを行います。

・1本1本の木の特徴を読みながら、強度や美観にも配慮して製材を行います。

とやま県産材の製品

・製材、集成材、合板等の製品に加工されます。

・最近では新素材として注目を集めるCLT（直交集成材）の生産も始まっています。

とやま型フェンス

・とやまの木と地場産業のアルミを組み合わせたとやま型フェンスの開発が行われています。

・2018年大阪北部地震の被害を契機にブロック塀から木製フェンスに変える動きがあります。



■STEP2 とやま県産材で建てる

木造建築への“追い風”

・木造に対する割高感、煩雑な施工体制、わかりにくい流通経路といった課題が解消されつつあります。

・人手不足によるRC造の敬遠、鉄骨材料入荷遅延等の情勢も木造建築への追い風になっています。

とやま県産材活用事例

1) 入善町さわすぎ保育園

・大空間に必要な集成材と入手しやすい一般流通材を組み合わせてコストを抑えています。



2) 魚津市立星の杜小学校

・近年の法令改正により実現した全国初の木造3階建校舎。構造材は地元魚津市産のスギ材を使用。
・木造の快適性、うるおいある学習環境、木を生かした学習＝木育の教材として利用されます。



3) 日本橋とやま館

・内装、ディスプレイ、家具に県産材を利用して富山らしさを演出しています。



4) 民間での活用事例

・商業施設、展示施設、企業の福利厚生施設の木質化が進んでいます。

5) CLTの活用事例

・CLTは耐震性、耐火性に優れた材料として全国的に注目され今後活用が拡大すると考えられます。

■STEP3 とやま県産材を手に入れる

とやま県産材の流通

・県内4つの森林組合や民間業者が原木を伐り出し、製材工場、集成材工場、プレカット工場を経由して製品となり消費者へ届けられます。

・とやま県産材は生産地と消費地が近く流通経路が明確な地産地消材といえます。

とやま県産材需給情報センター

・県産材の生産者(川上)から消費者(川下)をつなぐとやま県産材需給情報センターが設立されました。

・木材の需給情報を一元化することで県産材の流通を円滑化します。

